

## 5. 5 すむ：アンケート抄—Q. 我が家のスピリチュアル・スポット—

Facebook&Twitter（現X）「とある民俗学講師の補足メモ」

- \* 家=家族を襲うさまざまなトラブルの抑止装置
- \* スピリチュアルなるものは「境界」に現れる？
- \* DKスタイルにおける神棚・仏壇の所在なさ
- \* ライフスタイルの多様化と住宅供給のアンバランス

【いろいろ】京都市下京区にある祖父母の家は、幾度か改築は行なっているものの、大部分が江戸時代から残っているので、七条通から見て奥側に伸びる細長い構造を持ち、七条通側に店（母屋と呼ばれる）、奥に住居となる建物（離れと呼ばれる）がある。母屋と離れの間を繋ぐ広い土間のような空間には、お稲荷様を祀る神棚が二つあり、正月には水を変え。また、母屋の畳敷の部屋には仏壇があり、離れの横にある蔵には「おたぬさん」と呼ばれる狸と、龍神とを描いた掛け軸が飾られているが、祖父曰く、これは商売繁盛を願ってのことらしい。一方、最近リフォームされた近代的な生活スペースである離れには、先祖の写真が飾られているくらいで、神仏の類はほとんど飾られていない。

【神棚（東京）】実家（東京都葛飾区青砥）はマンションで、その和室の天袋に地元の神社（青砥神社）の木札や破魔矢などを置いて神棚としている。その神棚のある天袋に、通帳やパスポートなどの貴重品、私と弟の小中高時代の成績、受験票などを置いている。母親は私が高三の時、ほぼ毎朝、私の合格を祈って手を合わせていた。また、私の家ではポテチを買った場合は神棚にお供えしてから食べるというルールがある。なので、そのポテチを食べるのは早くとも買った次の日である。なぜポテチなのかと父に聞いたところ、「おいしいから神様にも差し上げなくてはならない」そうである。

【神棚（大阪）】わが家であるマンション（大阪府富田林市）のリビングに、南向きになるように神棚を祀っている。三輪山の大神神社（奈良県桜井市）の神様を祀っている。我が家は大神神社を代々祀っており、毎年家族で初詣する。毎日お酒をお供えし、定期的に軸を取り換え、掃除をしている。母方の祖母から不思議な話を聞いた。祖母のお父さんが神棚を修理に出したとき、用事が重なり、なかなか取りに行けなかった。あまりに取りに来るのが遅いので、お店の人がもうこないだろうから神社に返納しようと思った日の晩に、「そろそろ取りに来るので、少し待ってこないだろうか」と神様に伝えられる夢をみたそうだ。その話を、曾祖父が神棚を取りに行ったときにお店の人から聞き、祖母に伝えたらしい。お店の人こんなことは今までなかったようで、とても驚いていたそうだ。身近にこのような話があつて驚いた。

【仏壇（埼玉）】埼玉県吉見町の父方実家（一軒家）には、母屋の廊下奥に仏壇がある。先祖代々の位牌が26柱あり、上段、中段、下段に分れて並べられている、古くは江戸時代、享保、安永、天保から続いているとのことだった。仏壇には線香立て、おりん、ロウソク立てがあり、事あるごとに使っている。主にお彼岸、お盆は花、穀物をお供え供養し、親戚の祝い、不幸等も先祖様に報告しているらしい。

【仏間】三重県鈴鹿市にある祖父母の家には仏壇と神棚がある。一軒家の3分の1程の広さを占める部屋があり、その部屋の壁の真ん中に、仏壇と神棚がある。他には、壺、大きな皿、僧のような置物などが置かれている。この部屋が使われているのは、家にお坊さんを読んでお経を唱えてもらう時にしか見たことがない。

【ヒヌカン】祖母宅（沖縄県浦添市）は一戸建てで、台所に「ヒヌカン」と呼ばれる神様を祀るスペースを設けています。ヒヌカンは火の神と書くかまどの神様らしく、祖母が毎日拝みを捧げています。日頃の心配事を相談する家の守護神であるだけでなく、ほかの神々に話を通すお通し処の役割もあるそうです。今もそうかは分かりませんが、母から娘に代々受け継がれるものであったそうです。

【御札】京都市左京区田中にあるアパートで下宿していて、トイレの扉に烏枢沙摩明王のお札が貼ってある。烏枢沙摩明王はトイレの神様として知られ、不浄避けとしてお供えされる。占い、祟り、幽霊などスピリチュアルなものをカジュアルに楽しんでいる母のすすめで、一カ月ほど前、左京区一乗寺松原町にある狸谷山不動院を参拝した時にそのお札をいただいた。母いわく、玄関入ってすぐ右手にトイレがあると病気になりやすらしく、言われた通り、南向きに貼っている。トイレに行くとき嫌でも烏枢沙摩明王を拝む体勢になるので、毎日拝んでいるが、今のところ効果を体感できていない。

【大黒柱】岡山市南区の実家（一軒家）の大黒柱に御札が貼ってある。大工の祖父が上棟式の際に貼ったらしい。開運長久・家紋繁栄と書かれている。大黒柱は家の中心を支える重要な柱であることから、神社や寺院の御札を祀ることで家全体を神聖な場所として守り、厄除け、家内安全などのご利益を願う習わしが古くからあるそうだ。神様の力で家を守ろうという思いが込められている。

【玄関】一軒家の実家（東大阪市）の玄関を入ったところにある下駄箱の上には御札が置いてある。高野山の金剛峯寺のものと同八阪神社で祇園祭の時にもらえる粽（ちまき）である。金剛峯寺のものは二、三月ごろに両親が参拝した時に買ったもの。木の皮（ヒノキか？）に文字が書かれている。八阪神社のものは二、三年前からずっとある。御札の下にはウルトラマンが数体。これは私自身がガチャガチャで引いたもので、悪霊を退散させる意味を込めて玄関に置いている。

【鬼門除け】実家は長野県北安曇郡池田町にある一軒家です。その家の裏の角が切り取られた（凹んだ）ようになっています。北東の角で鬼門封じのためにそうなっているらしいです。

【屋敷神等】私の実家は静岡県磐田市にある一軒家で、敷地内で屋外の北西の角、南向きに地の神様というものが木製の小さな祠に祭られている。祖父母と別居するようになってから、管理をおろそかにしていたため、劣化したまま放置されているが、今までは古くなったら12月15日に前より少し良い祠を購入し、拝んで入れ替えていたようだ。さらに周りをきれいにし、赤飯となますを竹の皮（または、藁のつと、はらん、祖母のころはへぎ木を紙のように薄く削ったもの）にのせてお供えしていたらしい。これは祖母から聞いた話で、私自身が行った記憶はない。

【一軒家】年末年始や長期休暇などでは、決まって山口県美祢市にある祖父母の家に家族で訪問する。その祖父母の一つ上の世代、つまり私から見ると曾祖父母が以前住んでいた場所が、今も同市に一軒家として残っている。その一軒家の中心に位置する畳の大広間の一角に仏壇がある。祖父母の家に訪問した時は、決まってそこにも訪れ、仏壇に向かって拝んでいる。また、身内が亡くなった時には僧侶や親戚を呼び、そこで葬儀等を行っている。

【記念品】千葉県船橋市にある私の実家は、駅前のマンションということもあり、広いとはいえませんが、和室の一角に電子ピアノがあります。父方の祖父母が購入してくれたもので、兄や私が幼い頃から弾いてきたピアノです。家族の記念品（写真）はそのピアノの上に置かれています。兄の部活（野球）をしている姿の写真、私の部活（サッカー）をしている写真、さらには、亡くなった母方の祖母の写真も置かれています。最近、私の入学式の写真が加わったそうです。和室は両親が寝る場所でもあるため、2人はよくその写真を眺めるそうです。

【仏壇（兵庫）】実家は兵庫県西宮市のマンションで、父の部屋には父方の祖父母やご先祖の仏壇がある。もともと札幌市豊平区の父の実家にあったものだが、祖父母が他界し、父の実家を取り壊すことになったので、今の家に持ってきた。高さが1mを超える立派な仏壇だったが、そのままだとマンションでは大きすぎるため、業者に依頼して40cmほどの高さに作り替えてある。新しく作る手もあったが、家族の歴史が詰まった仏壇ということで、作り替えることにした。